



ご案内

「楽の庭と劇場空間」

日時：2018年7月12日（木）18時30分～20時30分

会場：東京ボランティア・市民活動センター ラムラ・セントラルプラザ10階（JR飯田橋駅横）

講師：田村博巳氏（演出家、国立劇場調査養成部長、静岡音楽館AOI企画会議委員）

「楽」とは、日本芸能史上の雅楽、能楽、文楽、あるいは神楽、田楽などにみられるように普く分野に偏在し、音楽演劇の本来よりどころとする「あそび」の発現を意味している。また「庭」は、人の力だけではない何かが働いて身も心も解き放たれる、そんな「神聖なもの」との出会いの場を昔の人々は「にわ」と呼んだらしく、それは、多少とも共同の作業、あるいは共同体的な行事、祭や神事などの行われる場所、さらには「芸能」の行われる場所を主としてさす言葉となった。もともとは野外で、自然の中でなされたものでも、やがて特定の囲い込まれた場所で行われるようになったという。

下北沢の本多劇場系列の小劇場が“宿神楽”となった早池峰（大償・岳）や陸中沿岸（黒森）の神楽、青山ワコールアートセンターのスパイラルガーデンを“螺旋曼荼羅”に見立て構成した新作声明等、これまで演出してきた伝統芸能シリーズ「楽の庭」や、スパイラル声明コンサートシリーズ「千年の聲」のステージから話題をひろう。

講師略歴：田村博巳（たむら ひろみ）氏 1955年、東京生れ。79年、慶応義塾大学文学部社会学科



卒業。81年より、国立劇場（日本芸術文化振興会）勤務。95年より、静岡音楽館AOI企画会議委員。2013年国立劇場制作部長、15年新国立劇場・おきなわ部長を経て、18年より、国立劇場調査養成部長。民俗芸能、雅楽、声明（仏教音楽）を中心に日本の伝統芸能公演を企画制作し、民俗儀礼や口頭伝承の研究に立脚した創作を舞台芸術作品として構成演出する。古典芸能の保存・継承とともに、作曲家等と協同して伝統の素材を現在の視点でとらえた意欲的作品を数々発表する。国立劇場および国立文楽劇場主催の公演制作をするほか、静岡音楽館AOIコンサートシリーズ、本多劇場劇小劇場プロデュース公演 伝統芸能シリーズ「楽の庭Ⅰ～Ⅳ」スパイラル声明コンサートシリーズ「千年の聲 vol.1～24」などで継続的に演出している。

*第一部・心に残る京都20の庭園の8回目は、夏の京都旅行で再訪する金閣寺のおさらいと天龍寺庭園につながる臨濟禅の平和と美について原田榮進日本ガルテン協会長より伺います。

参加費は1回2千円（一般3千円） 茶菓子付 先着予約40名

お誘いあわせの上のご来場をお待ちしております。

……………人と庭物語り会参加申込書……………



FAX・03-3377-9810

NPO 日本ガルテン協会：講座担当宛

（ご記入の上、このまま FAX して下さい）

電話；03 - 3377-1477

下記のように申し込みます。 御出席 ・ 御欠席

7月の講座 田村博巳先生 7/12 東京ボランティア・市民活動センター		計	名
氏名	御同伴者 :		
連絡先	()		
	(メールアドレス)	@	

